

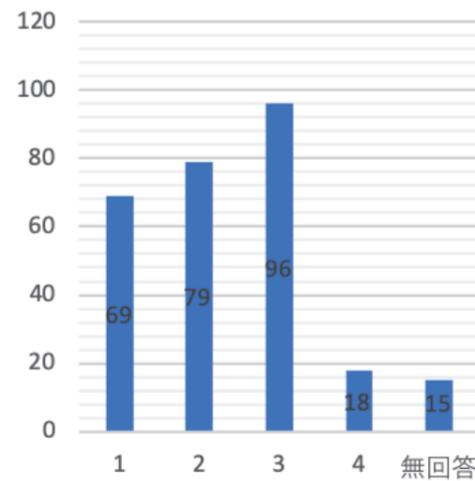
全戸配布アンケート「コロナ禍、どう過ごされてきましたか？」 結果発表

今年度も例年通り全戸配布アンケートを実施し、昨年の倍以上の277世帯から回答をいただきました。コロナ禍により多くのコミュニティ活動が自粛となる中で、皆様がどのように過ごされていたのか、また今後のコミュニティ活動についてどのように考えているのかを伺うことで、来年度以降の活動へと反映させることを目的としました。

多くの方に記入いただいた自由回答欄から、感染症予防に対する関心の高さや、自粛や終息に関する考え方が多様であることがわかりました。様々な意見があることをお伝えすることが本アンケートの重要な役割であると考えています。



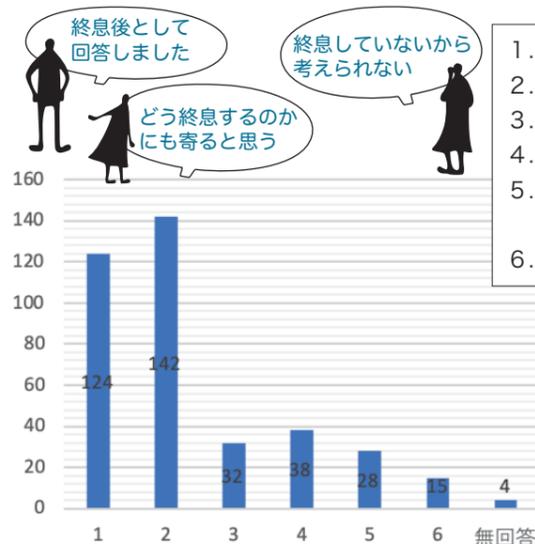
Q1. 緊急事態宣言の出された期間（4月～5月頃）にどのように過ごされてきましたか？
あてはまるものに○印をつけてください。



1. 買い物などの生活に必要な活動もなるべく控えて、徹底した自粛を行った
2. 生活に必要な活動は行っていたが、仕事などの外出は控えて自宅で過ごした
3. 仕事などは通常通り行っていたが、外食やレジャーなどの外出は控えた
4. 特に気にせず、いつも通り過ごした

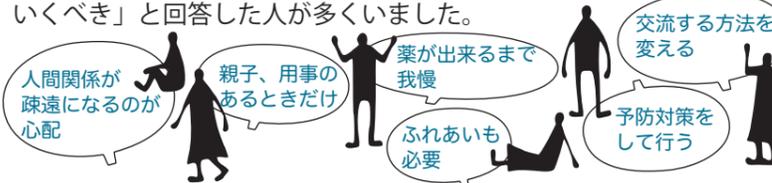
回答者の年代は60代～80代が多く、全体の77%を占めていましたが、3の回答が最も多く、緊急事態宣言下でも多くの方が、リモートワークではなく出勤して仕事をしていました。

Q3. ウィズコロナ時代・コロナ終息後のコミュニティや人との関わり方について、どのように考えていますか？
あてはまるもの全てに○印をつけてください。（複数回答可）



1. 感染症を予防するために、今後も人との接触を減らしていくべきだと思う
2. 感染症に予防の対策をすれば、身近な人とのふれあいは行っても良いと思う
3. 感染症に予防の対策をすれば、多くの人とのふれあいを行っても良いと思う
4. 少人数や身近な人であれば、感染症を気にせずふれあいを行っても良いと思う
5. コミュニティの衰退を防ぐために、今までと同じようにイベントや活動を行うべきだ
6. その他

回答期間が緊急事態宣言下であったため、多くの方が自粛の徹底を選択されていました。特に80代では「1. 今後の人との接触を減らしていくべき」と回答した人が多くいました。

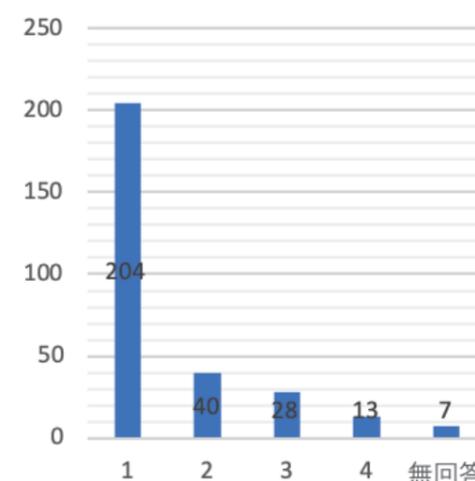


アンケート作成時はGO TO イート、GO TO トラベルが全国で実施されており、感染者は増加していたものの経済対策の比重が高い時期でしたが、配布～回答時は一転して緊急事態宣言が発出された期間であったため、「ウィズコロナ時代」がどのような状態を指すのかが分かりにくいという指摘や、緊急事態宣言の影響が感じられる回答を数多くいただきました。

また「コロナ終息後」についてもどの状態を終息とみなすのか、という問いかけを複数いただきました。ワクチンが普及したら終息とみなす方もいれば、ゼロコロナまでという方もおり、「終息」の定義も人によって大きく異なることが確認されました。

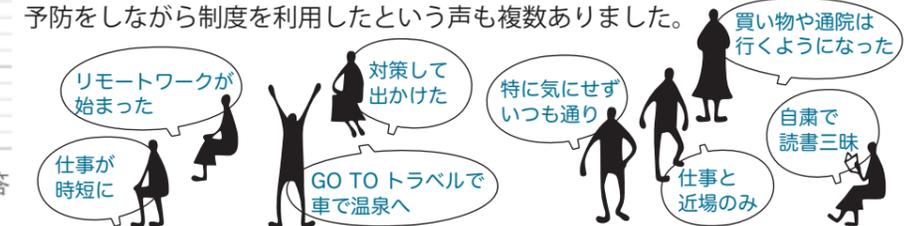
ワクチンの接種が順次開始されるなかで、次年度の活動について屋外や少人数などのキーワードを軸に、少しずつ出来ることから実施をしていけるよう、団地再生委員会では検討を続けていきます。

Q2. 「GO TO トラベル」（7月～）「GO TO イート」（9月～）が始まってから第3波の到来までの期間はどのように過ごされてきましたか？あてはまるもの全てに○印をつけてください。（複数回答可）

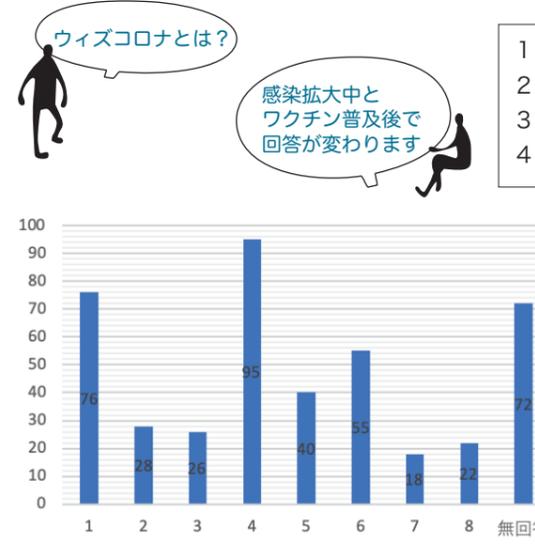


1. 外出自粛要請の期間と変わらない
2. 生活や仕事に関わる外出の機会が増えた
3. 外食やレジャーなどの外出の機会が増えた
4. その他（右の欄にご記入ください）

ほとんどの方が緊急事態宣言下と変わらない過ごし方をされていたことがわかりました。一方で、移動を車にしたり行先での外出を控えるなどの感染症予防をしながら制度を利用したという声も複数ありました。



Q4. ウィズコロナ時代のコミュニティ活動として、あったら参加してみたいと思うものはありますか？
あてはまるもの全てに○印をつけてください。（複数回答可）



1. 土曜日
2. 映画会
3. 講演会や勉強会
4. 散歩や体操など体を動かすイベント
5. 写真や絵画などの作品展示
6. 屋外での飲食を伴わないイベント
7. 屋外での飲食を伴うイベント
8. その他

複数の活動に○をつけた方もいれば、無回答や活動を行うべきでないという声も多くいただきました。クリーンデイなどの生活に必要な活動や個別に高齢者を見守る仕組みなどの提案もいただきました。



藤棚下のベンチの改修に向けて活動しています

池広場の課題の一つとして、「藤棚下のベンチが低く特に高齢者が座ったり立ち上がったりにくい」ということがあります。これは一般的な椅子の高さ（座面高さ=35~40cm）に比べて大変低くなっており（座面高さ=25cm程度）、膝に負担がかかりやすいことが原因です。

そこで藤棚下のベンチを誰もが座りやすくするために、6基あるうちの1基を改修することを検討しています。



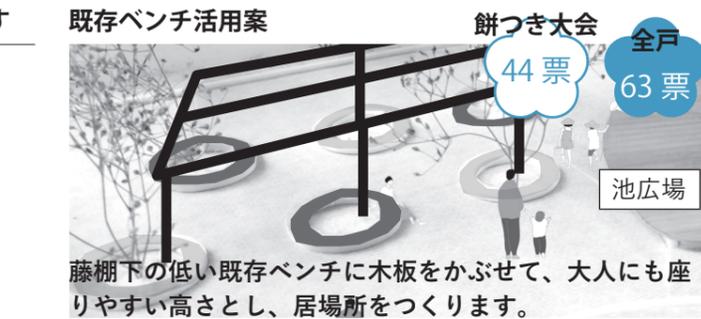
皆様のアンケート結果から既存ベンチ活用案を検討します

令和元年度の餅つき大会アンケート・全戸配布アンケートでは、このベンチの改修方法について4つの案を提示して皆様から意見を伺いました。結果は「既存ベンチ改修案（右図）」が、餅つき大会アンケートでは僅か1票差で2位、全戸配布アンケートでは大きく差をつけて1位となり、圧倒的な人気を集めました。

アンケートを元に団地再生委員会で話し合った結果、将来的な池の改修などを視野に入れ、実験的に1基を改修することを、共に活動している営繕部会に提案しました。

こどもから大人までが座りやすい高さへ

座りやすい椅子の高さは身長ごとに異なります。3歳児（身長100cm）には25cm程度、10歳児（身長130cm）には33cm程度、身長170cmの人には42cm程度となり、一般的な座面高さは40cm前後です。また国土交通省監修の「都市公園標準技術解説書」では、ユニバーサルデザインの観点から、小休憩用の腰掛板は40~45cmが良いといわれています。



藤棚下の低い既存ベンチに木板をかぶせて、大人にも座りやすい高さとし、居場所をつくります。

木質系の材料をかぶせて座面を嵩上げします。

そこで円が4つに分割されている形状を活かして、分割された座面ごとに異なる高さとなるように嵩上げを行います。表面の材質は木質とすることで、現状の冷たいコンクリートから暖かみのある素材とします。簡易的な実証実験として皆様にも体験していただけるよう、来年度の実施を目指して活動をしていきます。また、住民のみなさまから手すりがあるとより座りやすいという声もいただいております、よりよい居場所のあり方を引き続き検討していきます。

編集後記

<コンサルタントに今年を振り返ってもらいました>

今年度は新型コロナウイルス感染症により、誰もが生活に大きな影響を受けました。私自身も団地へ一度しか伺うことができず、もどかしい一年でした。ワクチン接種が始まって世界情勢も変化していくことが期待されますが、新型コロナウイルスに限らず、感染症という災害は今後も起こりうることです。多くの会社がリモートワークやオンラインでのコミュニケーションを取り入れたように、コミュニティ活動の在り方も多様化していく時代になるのかもしれませんが。

だんち☆さいせい いいんかい

団地再生委員会たより

令和2年度
第1号！



栗田委員長よりご挨拶

皆様には、日頃より当団地の住みよい環境づくり等にご理解・ご協力いただき感謝致します。

この一年は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発せられるなど、だれもが経験したことのない環境に、息苦しさを感じておられるのではないのでしょうか。当団地においても、挨拶を交わすことのコミュニケーションの「大切さ」さえも、自粛せざるを得ないという未曾有の危機的状況に、なんとも気の重い「青天を衝け」ない日々となっていることが残念でなりません。

さて、今回のアンケート調査に多くの皆様のご協力いただき、ありがとうございました。このアンケート結果を今後の活動に生かしていきたいと考えています。一日でも早くこのコロナ禍が終息することを願ってやみません。

団地再生委員会の活動

令和2年度は4月の緊急事態宣言に始まり、新型コロナウイルスの影響を受けてコミュニティ活動はもちろん、暮らしに必要な団地内の多くの活動も自粛や延期された年度となりました。

団地再生委員会は10月の管理組合総会後、11月に1度だけ開催しましたが、当初予定していた活動は実施できず、みなさまからの声を直接聞くことの出来ない1年でした。

高齢者や独居の方が増えている西小中台団地では、暮らしを守るために人とのふれあいはかけがえのないものです。

ワクチン接種が進む中で、来年度以降どのような活動が可能であるか、委員会として模索していきます。

令和2年度の取り組み

- ・藤棚下ベンチの改修に関する検討
- ・全戸配布アンケート（1月に実施）
- ・団地再生委員会（11月に1回のみ開催）
- ・団地再生新聞の発行（3月に1回）

今年度は中止になった活動

- ・土曜日（毎月第三土曜日）
- ・映画会（年3回を予定）
- ・餅つき大会アンケート
- ・池広場デッキの検討
- ・コミュニティと防災拠点の検討
- ・カタログ作成準備

令和3年度の取り組み（予定）

1. 住民参加による西小中台独自の「団地再生」を目指し、活動を継続します。

- ・池広場を気軽に集まる居場所にする検討
- ・防災拠点となる多世代交流型集会所の検討
- ・住民の皆様から意見等をいただく活動
- ・広報、各種資料収集

2. 住民参加のコミュニティ活動を進めます。

- ・50周年に向けた活動
- ・「西小中台の素敵な暮らし」カタログ作成に向けた活動
- ・土曜日、映画会の実施（状況により判断）
- ・関係各部会、委員会と連携した活動